

大項目	自己評価			学校関係者評価		
	中項目	小項目 (評価指標・具体的な取組)	達成状況・改善方策		評価	
I 夢・希望・志をもって 社会を生き抜く人づくり	キャリア教育	教育活動全体を通じて「生き方」に迫る時間の充実を図り、将来への夢や志を持たせる指導や体験活動が、計画的に実施されているか。	コロナ禍による制限の中でも、キャリア参観日の実施や職場インタビューをゴールとした取組を実施した。生徒の職業観や将来の進路を考える力を育ててきた。アンケートでは、自分の進路を考えることができていた生徒が 74.1%、保護者の進路指導への肯定評価は 83.0%であり昨年と比較するとそれぞれ 0.2P、+3.1P となっている。教職員においては 83.9%で昨年度より下がっている。教職員の取組がまだ十分に浸透していない現状がうかがえる。	B	B	長引くコロナ禍が生徒に将来への不安を抱いているためにポイントがさがっているのではないのでしょうか。保護者も社会の大きな変化を感じているとともに、学校の活動の制限の多さなどを含めて進路指導に不安があると思われる。先生方は熱心な進路指導を行っていても、それらの不安を払拭するに至っていないのかもしれない。方法や視点を変えてみればいいのではないのでしょうか。防災教育に関してはコロナ感染予防による活動制限の影響が大きいと思われていますが、工夫をしながら実施できていることが評価できると思います。特別な支援が必要な生徒に対して、どうすればよいかを学ぼうとしたり、教員同士が連携をしながら組織的に支援していることが評価できるのではないのでしょうか。どの生徒に対しても思いやりのある教育的な支援があることを期待しています。また、全国的に不登校生徒が増加していると聞いていますが、特別な教室を設置して改善を目指していたり、不登校生徒を増やさないように、家庭訪問エオしたり、定期的な会議を開いたりして、先生方が組んでいる姿勢は評価できると思います。
	防災教育	南海大地震等の来るべき災害に備え、地域と連携した計画的な訓練実施と校内危機管理体制の構築に努めているか。	3回の避難訓練と防災講演会を実施した。今年度もコロナ禍のために制限された内容となり、予定していた地域の防災訓練に参加はできなかったが、防災講演会では、地域と一緒に、防災教育について学ぶことができた。	B	B	
	特別なニーズに対応した教育	特別支援学級における指導の充実と、通常学級で学ぶ特別な支援を要する生徒の支援が計画的かつ適切に行われているか。	特別な支援を要する生徒の具体的な支援体制を中心に、生徒指導の在り方について、講師を招聘しインクルーシブ教育について学んだ。定期的な部会において情報を共有するとともに、組織的な支援を行った。引き続き、日常における生徒への十分な配慮とともに、どの生徒にも効果的な支援ができるようにしたい。	B	B	
	長期欠席・不登校への対応	組織として、不登校を生じさせない学級経営や授業づくりを推進しているか。登校できていない生徒や教室に入れない生徒に対し、計画的に支援・指導ができていないか。	不登校生徒が学級に復帰するための教室を設置し、新規不登校を生まないよう全教員で指導にあたるなど組織的な取組を継続して行っている。家庭訪問の実施や放課後登校、リモート学習によるきっかけづくり等、個々に応じた丁寧な支援を行っていることで、定期的な登校や別室から通常教室へ参加するようになる生徒が出る等、成果も見られた。今後も同様の取組を推進する。	B	A	
と心豊か か健かな なや	人権教育 平和教育	平和の尊さについて考える機会が設定されているか、自己や他者を尊重しようとする感覚や意識が身につくような取組みや指導がされ	学校評価アンケートにおいて、生徒の 95.7% (前年度比+10)、保護者の 95.8%が肯定的評価をしていることから、思いやりのある生徒の育成	B	B	生徒・保護者ともに「自分や友達を大切にしたり思いやりの心を持つことができている」が高く、学

		ているか。	ができていますと一定評価できる。しかし、教職員の肯定が 90.3%であった。全教職員が意識して、日常のすべての活動において、平和や人権尊重の意識を高める取組を実践する必要がある。 また、働き方改革の推進も考慮しながらも、地域の促進学習にも力を入れていきたい。			校で生徒の心の教育ができていますと言えらると思います。昨年度より良い結果が出ていたのは、学校が楽しいと思える生徒が多くなっていることや、生徒と先生方の関係が良いことが原因だと思えます。これからも先生方が生徒の思いに立った指導をしてほしいと願っています。
	道徳教育	教育活動全般において、特に道徳の授業が工夫され、自他の命の大切さを知ったり、規律ある生活ができる等、道徳的価値に基づいた人間としての生き方について考えさせているか。	道徳担当教員と学年主任の連携で、計画的に進められた。参観日の設定をして、道徳教育の強化期間を設定した。課題の設定の仕方や授業形態、教科との連携強化が必要である。	B	B	
	人権尊重を基盤とした生徒指導	生徒理解に努め、生徒の自尊心や自己肯定感を高めるための「認める指導」が組織全体で行われているか。	先生が丁寧に生徒の相談に応じていると感じている保護者が 93.5%であった。生徒については 90.0%と昨年度から+1.0P 上昇している。生徒の困り感に立って丁寧な指導・支援することが少しずつできています。	B	B	
	体力の向上 食育の推進	早寝、早起き、朝ごはん運動を推進するとともに、体育の授業や部活動等で生徒の体力向上を図る手立てを講じているか。	体育の授業や運動部の活動を通して体力向上のためのトレーニングを強化するなど意識的な取組をしてきている。また、体育の授業でも部活動でも外部指導者からの専門的な指導によって成果も出ている。	B	B	
Ⅲ 自ら学び、 学びの楽しさを共有できる力の育成	確かな学力を育む教育	城西流協働学習を推進して、効果的なグループ学習や意欲的に学ぼうとする課題の設定等の授業改善が推進され、学び合う集団づくりできているか。	1 学期と 2 学期の生徒への学びアンケートの比較から、城西流協働学習に積極的に取り組んでいるか+7P、一斉型の授業よりも楽しく学べるか+6P、コミュニケーション能力が高まっているか+4P、学習の成果が上がっているか+8P、城西流協働学習を続けたいか+7P と、すべての項目で肯定的な意見が増加している。引き続き、研修等も実施しながら、研究推進部を中心に授業改善を進める。	B	B	アンケートの他の項目に比べて評価が低くなっているのは、どうしても期待が高くなるからだと思えます。生徒は勉強以外への興味をもつことが多くて、それでも学ばせようとする先生方の努力は評価できるのではないのでしょうか。どの生徒にもわかりやすい授業をするように努めている先生が増えていきます。コロナの予防のために学校行事がたくさん制限されていて、いろいろな困難がある中で、高い期待に満足する結果を出すのは難しいと思えますが、極端に評価が下がっているわけではなく、授業がわかりやすいと答えている生徒は 7 割以上います。先生方の努力に効果が出ることを期待したいと思えます。
	学校の組織力 教職員の 資質・能力	スタッフ部門や分掌主任の提案を受けて、ライン部門が適切に機能し、学年団を要にした取組みが組織的に積み上げられているか。	わかりやすい授業に努めている教職員は 90.3%と昨年度より+5.1P 増加、授業がわかると答えた生徒が 72.4%と昨年度より-3.2P 下がっている。子どもは授業が分かっているかについて、保護者は昨年同様 62.1%が肯定的であった。授業改善の努力が生徒へは一定浸透してきていると見えるが、教職員は実感としてまだまだ得られない状況や、保護者においては学校生活でのさまざまな不安が払拭できていないのではないかと考える。今後は保護者が実感できる授業改善を継続して取り組む	B	A	

			ことで、教職員自身も手ごたえを感じることが必要である。		
IV 学校・家庭・地域との協働による教育力の向上	地域との連携・協働	地域学校協働本部を中心に、学校行事や授業等において日常的な地域との協働活動が推進できているか。	制限の中でも、体育祭への協力、地域学校共同本部の定期的な開催と、美術部との交流、生徒会と地域の交流会、防災講演会の実施など、地域とともに生徒の健全育成を考えた取組ができていた。生徒会執行部を中心とした生徒会活動の活性化して、生徒の自治力を高める指導やその機会を与える。	B	B コロナ禍でも定期的な地域学校協働本部が行われて、学校の情報提供で学校のことがよくわかったり、地域の意見を聞いてもらえるなどの交流ができ、さらには生徒会の生徒とも一緒に地域のことを考える交流ができました。地域とともにある学校を意識されていることがとても感じられて、コロナ禍の終焉後の活動に大きく期待しています。
	活力ある学校づくり	授業や学校行事等に地域人材を招聘するなど、生徒に多様な学習の機会や活躍の場面を設定しているか。	総合学習では積極的に地域人材を活用した。地域について学び、地域の方の声を聞き、地域の方への発信をした。コロナ禍においてもICTの活用や実施方法の工夫等で可能な限りの効果的な実施と、その後の準備に取組んでおきたい。	B	A あいさつ運動やボランティア活動や交通指導などで協力できていて、常に、コロナ禍でも何ができるかを考えながら、縮小規模でも続けていることがいいです。生徒がさまざまな経験をする活動の機会を常に探している学校の姿勢に安心感を感じています。
	学校段階等間の円滑な接続	校区小学校と連携して、児童生徒の具体的な指導方針等の共有や開発的生徒指導の推進、研究開発に努めているか。	3年間の研究協力校として取組んできた小中連携の生徒指導について、コロナ禍の影響を大きく受けたことは否めないが、目指す生徒像の共有ができたこと、各部がそれぞれに連携すること、各学校がそれぞれの体制を整えていること等に進展を感じている。同時に、それぞれの課題も見つかり、その改善を以って具体的に効果的な活動になることを期待できる。さらに地域との連携も合わせて、コミュニティスクールへステップアップとしたい。	A	B 先生方の忙しさはコロナ対策のためにさらに大きくなっていると思います。地域やPTAでも何かできることがあれば支援したいと思っています。

経営のまとめ（成果と課題）
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○城西流協働学習として、学びあう生徒集団づくりを目指した。教員は教科会の活性化でわかりやすい授業に努めている。 ○授業における生徒指導を重視して「開発的生徒指導」を意識した授業改善に取り組んだ。 ○生徒や保護者、地域の学校への信頼や期待度が高まったと思われる。 ○生徒の学びアンケートからも、協働学習による学習形態が授業に対する意識を高めている。 ○不登校生徒に対する校内支援会や別室登校による支援体制が充実して、生徒の教室復帰が見られた。 ○地域協働本部では、地域の方々と生徒会の交流が進んでいる。 ○総合学習において、地域の方々の活用ができた。 ○小中連携の強化が進んでいる。めざす生徒像の共有ができて、生徒指導、保健、運営、人権等、各部会の活動が活性化し、各校での具体的な取り組みが開始される。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲コロナ禍であっても、生徒が安心して意欲的に学び、楽しい学校生活が送られて、自らの将来に明るい希望や目標がもてるような学校環境づくりに努めなければならない。 ▲楽しい授業が興味・関心をひくだけでなく、学力を確実に定着させる視点で授業改善を進める必要がある。 ▲授業がわかると答えた生徒が全体の7割程度であり、保護者からも生徒の学力に対する不安はまだ大きい。 ▲授業改善への取組みやキャリア教育、生徒指導等の充実等が、生徒や保護者に周知する必要がある。 ▲生徒が自らの進路を考えるための知識や経験の機会を与える必要がある。 ▲引き続き、不登校生徒や不登校傾向の生徒を出さない増やさない取組の強化が必要である。 ▲ライン機能とスタッフ機能が円滑に進める各主任や中堅教員の自主性や力量を高める必要がある。

学校関係者評価委員のまとめ
<p>何よりも、子どもたちの元気なあいさつを聞いたり、学校が楽しいという言葉が聞くと安心します。学校が好きな生徒は多いと思います。学力をつけて進路を決めることも大切ですが、コロナ禍で、安全面を一番に考えながらも、たくさんのつらい思いをしている生徒の気持ちを知って何とかしようとしている学校に感謝しています。先生方の忙しさを心配はしていますが、どんな時でも学校は子どもたちや保護者の頼れる場であって欲しいと思います。</p>

- ※ 中項目については、第2期高知市教育振興基本計画に含まれる内容の一例であり、各学校で独自の項目を設定することは可能である。更に各学校の取組に応じて他の大項目に分類変更してもよい。また、大項目Ⅰにおける中項目「特別なニーズに対応した教育」の一例は、第2期高知市教育振興基本計画にある「特別支援教育」「就学・教育相談」「帰国・外国人である子供への支援」などである。
- ※ 評価は、S…大変優れている、A…優れている、B…概ね満足、C…要改善の4段階で記入する。